

事業名 三鷹の農家さんがつくる炊き出し「ひつまみ汁」を食べる会

事業の概要

- 【2019年の防災イベント】
①日時
2019年2月16日（土）
10：30～12：30※雨天中止
②場所
JA東京むさし三鷹緑化センター
（農業公園内）
③定員：60人
④参加費：500円
（大学生以下100円）

当JA三鷹地区青壮年部では、都市農業の多面的機能の一つである防災機能を学ぶ場として「三鷹の農家さんがつくる炊き出し『ひつまみ汁』を食べる会」を開催。避難体験としてビニールハウス内も見学した。今回で3回目となる防災イベントは、楽しくおいしく三鷹の農業と防災を学べるとして、親子連れや若者などの参加も多い。
当JAでは地元農家と協力し、地震などの災害時に防災機能を地域住民に提供できるようそれぞれの自治体と「災害協定」を締結している。

背景・経緯



農地の多面的機能を伝える

都市農地は常に開発圧力にさらされているため、都市農地の役割、存在意義を発信することが重要であった。当JAでは、夏と冬にJR三鷹駅前で地場産農畜産物を直売し、新鮮で安全・安心な農畜産物を生産する農地の機能性をアピール。また、通年で実施する食農教育活動では、市の農業の歴史から都市農地の多面的機能を伝え、都市農業の多様な魅力を積極的に発信している。
こうしたイベント等は、まさに、風景となり見逃してしまいがちな都市農地の重要な役割を改めて地域住民に伝える場となっている。



事業のポイント



「まちなか農家」との連携

「まちなか農家」は三鷹市・武蔵野市の「まちなか」でがんばる農家さんを応援したいという有志が運営するサイト。「三鷹の農家さんがつくる炊き出し『ひつまみ汁』を食べる会」では、チラシづくりや広報などの協力を得ながら実施。「まちなか農家」会員でもある防災のプロから災害時の都市農地の役割を説明してもらうことで、参加者の多面的機能への理解も深まっている。

事業の効果



災害時に共助を発揮

災害を最小限にとどめる要因は普段から培ってきた地域コミュニティ力。防災イベントでは地域住民の防災意識向上にばかり目が行きがちであるが、JAの得意分野である食や農を絡めたことで、参加者同士の交流を促進し、災害時に重要な支え合う関係づくりに貢献している。
防災をテーマとした取組は、都市農地と地域住民が直接触れ合える機会を増やすことで、地域コミュニティづくりを促進し、公共財としての農業の多面的価値への理解を促している。

連携する事業等



JA東京グループでは各自治体と災害協定を結び取り組みを進めている。14JAがのべ38の市町村等と協定を締結している（平成30年現在）。

JAの最初の協定は、全国的にも早い時期の平成14年、国分寺市との協定である。さらに、日頃から防災意識を持てるよう、地域住民を巻き込んだ活動を計画。防災イベントに取組み、都市農業の機能を紹介している。

将来性・発展的展開



三回目となった当JA三鷹地区青壮年部による防災イベントは、運営のノウハウも蓄積され、ハウス見学、地場食材の炊き出しなど、JAらしい防災ツールが整備されている。また、食材だけでなく、炊き出し時に使う薪などは管内の植木生産者の圃場でた枝等を活用し、様々な組合員の協力体制が構築されてきている。一回の参加者は約30名であり、今後は広くこうした活動を知ってもらい都市農地の多面的機能への理解を広めることが必要となる。